

2024年度

**数理・データサイエンス・AI教育プログラム
自己点検・評価について**

**2025年9月
工学院大学
教育評価改善委員会**

1.リテラシーレベル（大学全体）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和6年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は1,552名（入学定員比111%）であった。また令和6年度に、リテラシーレベルの修了条件を満たした学生数は639名（入学定員比45.7%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和6年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができおり、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績との相関を通して、学生の理解度を分析できているか。	【点検結果】 令和6年度、当該プログラムの修了条件科目の一つである「工学院大スタディーズ」の履修者の成績分布はA+が1.81% Aが46.27%、Bが29.91%、Cが9.85%、Dが5.36%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の93.19%に単位認定)。また「工学院大スタディーズ」の授業アンケートの平均値は3.33(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.34(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績との相関を通して、学生の理解度を定量的に分析できており、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 令和6年度は、教育開発センターの学生代表意見交換会(学部3年生を中心として10名)にて教育プログラムに関する意見聴取を行った。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室会議が開かれ点検ならびに、カリキュラムの見直しについて協議が行われた。履修率向上のために履修登録に当たってのガイダンス等を通じて学生に告知した。学生ポータルサイトで教育プログラムの履修状況を学生自身が確認できるようになっている。学生のスマートフォンにデジタル修了証が発行できる仕組みとなっている。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 教育プログラム修了者の一部がDX事業者を含む企業へ就職した。修了者の活躍は、今後、総合企画部広報課による卒業生インタビュー等を通じて評価していく。社会からのニーズは、就職キャリアセンターと企業との面談を通した意見聴取をもとに把握した。また、科目「学外研修」において、IT企業から全学部に対して受け入れ希望があった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の進路状況、企業との面談による意見聴取、学外研修、インターンシップの実績から、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	B
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 教育プログラムの実績の一部をもとに申請した「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」による産業界からの視点を含めた教育プログラム"DX実践ラボ"を継続した。DX実践ラボは外部者による実践的教育とその評価によって、教育プログラムを検証することができる。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証の実施が試みられているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 総合企画部広報課とyoutube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8sIY）。また、令和4年度に設置した教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和6年度は、令和5年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

2.応用基礎レベル（先進工学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和6年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は402名（入学定員比110%）であった。修了条件を満たした学生数は7名（入学定員比1.9%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和6年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができおり、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績との相関を通して、学生の理解度を分析できているか。	【点検結果】 令和6年度、当該プログラムのコア科目の一つである「線形代数及び演習Ⅰ（先進工学部）」の履修者の成績分布はA+が25.44%、Aが35.91%、Bが19.2%、Cが11.72%、Dが2.74%であった（A+からDまでが単位認定、履修者の95.01%に単位認定）。また「線形代数及び演習Ⅰ（先進工学部）」の授業アンケートの平均値は3.56(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.61(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績との相関を通して、学生の理解度を定量的に分析できおり、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 令和6年度は、教育開発センターの学生代表意見交換会(学部3年生を中心として10名)にて教育プログラムに関する意見聴取を行った。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室会議が開かれ点検ならびに、カリキュラムの見直しについて協議が行われた。履修率向上のために履修登録に当たったのガイダンス等を通じて学生に告知した。学生ポータルサイトで教育プログラムの履修状況を学生自身が確認できるようになっている。学生のスマートフォンにデジタル修了証が発行できる仕組みとなっている。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 教育プログラム修了者の一部がDX事業者を含む企業へ就職した。修了者の活躍は、今後、総合企画部広報課による卒業生インタビュー等を通じて評価していく。社会からのニーズは、就職キャリアセンターと企業との面談を通した意見聴取をもとに把握した。また、科目「学外研修」において、IT企業から全学部に対して受け入れ希望があった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の進路状況、企業との面談による意見聴取、学外研修、インターンシップの実績から、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	B
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 教育プログラムの実績の一部をもとに申請した「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」による産業界からの視点を含めた教育プログラム"DX実践ラボ"を継続した。DX実践ラボは外部者による実践的教育とその評価によって、教育プログラムを検証することができる。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証の実施が試みられているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 総合企画部広報課とyoutube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8slY）。また、令和4年度に設置した教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和6年度は、令和5年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

3.応用基礎レベル（工学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和6年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は409名（入学定員比108%）であった。修了条件を満たした学生数は18名（入学定員比4.7%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和6年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができおり、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績との相関を通して、学生の理解度を分析できているか。	【点検結果】 令和6年度、当該プログラムのコア科目の一つである「線形代数及び演習Ⅰ（工学部）」の履修者の成績分布はA+が31.13%、Aが28.77%、Bが20.99%、Cが7.78%、Dが5.19%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の93.87%に単位認定)。また「線形代数及び演習Ⅰ（工学部）」の授業アンケートの平均値は3.54(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.55(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績との相関を通して、学生の理解度を定量的に分析できており、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 令和6年度は、教育開発センターの学生代表意見交換会(学部3年生を中心として10名)にて教育プログラムに関する意見聴取を行った。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室会議が開かれ点検ならびに、カリキュラムの見直しについて協議が行われた。履修率向上のために履修登録に当たってのガイダンス等を通じて学生に告知した。学生ポータルサイトで教育プログラムの履修状況を学生自身が確認できるようになっている。学生のスマートフォンにデジタル修了証が発行できる仕組みとなっている。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 教育プログラム修了者の一部がDX事業者を含む企業へ就職した。修了者の活躍は、今後、総合企画部広報課による卒業生インタビュー等を通じて評価していく。社会からのニーズは、就職キャリアセンターと企業との面談を通した意見聴取をもとに把握した。また、科目「学外研修」において、IT企業から全学部に対して受け入れ希望があった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の進路状況、企業との面談による意見聴取、学外研修、インターンシップの実績から、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	B
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 教育プログラムの実績の一部をもとに申請した「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」による産業界からの視点を含めた教育プログラム"DX実践ラボ"を継続した。DX実践ラボは外部者による実践的教育とその評価によって、教育プログラムを検証することができる。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証の実施が試みられているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 総合企画部広報課とyoutube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた(https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8slY)。また、令和4年度に設置した教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した(https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/)。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和6年度は、令和5年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

4.応用基礎レベル（情報学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和6年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は332名（入学定員比107%）であった。修了条件を満たした学生数は134名（入学定員比43.2%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和6年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができており、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績との相関を通して、学生の理解度を分析できているか。	【点検結果】 令和6年度、当該プログラムのコア科目の一つである「確率・統計Ⅰ」の履修者の成績分布はA+が16.76%、Aが23.3%、Bが21.31%、Cが13.07%、Dが17.61%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の92.05%に単位認定)。また「確率・統計Ⅰ」の授業アンケートの平均値は3.40(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.26(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績との相関を通して、学生の理解度を定量的に分析できており、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 令和6年度は、教育開発センターの学生代表意見交換会(学部3年生を中心として10名)にて教育プログラムに関する意見聴取を行った。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室会議が開かれ点検ならびに、カリキュラムの見直しについて協議が行われた。履修率向上のために履修登録に当たってのガイダンス等を通じて学生に告知した。学生ポータルサイトで教育プログラムの履修状況を学生自身が確認できるようになっている。学生のスマートフォンにデジタル修了証が発行できる仕組みとなっている。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 教育プログラム修了者の一部がDX事業者を含む企業へ就職した。修了者の活躍は、今後、総合企画部広報課による卒業生インタビュー等を通じて評価していく。社会からのニーズは、就職キャリアセンターと企業との面談を通した意見聴取をもとに把握した。また、科目「学外研修」において、IT企業から全学部に対して受け入れ希望があった。。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の進路状況、企業との面談による意見聴取、学外研修、インターンシップの実績から、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	B
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 教育プログラムの実績の一部をもとに申請した「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」による産業界からの視点を含めた教育プログラム"DX実践ラボ"を継続した。DX実践ラボは外部者による実践的教育とその評価によって、教育プログラムを検証することができる。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証の実施が試みられているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 総合企画部広報課とyoutube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8slY）。また、令和4年度に設置した教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和6年度は、令和5年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

5.応用基礎レベル（建築学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和6年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は360名（入学定員比104%）であった。修了条件を満たした学生数は61名（入学定員比17.7%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和6年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができおり、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績との相関を通して、学生の理解度を分析できているか。	【点検結果】 令和6年度、当該プログラムのコア科目の一つである「AIとデータサイエンス」の履修者の成績分布はA+が37.86%、Aが35.71%、Bが13.57%、Cが5.00%、Dが0.71%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の92.86%に単位認定)。また「AIとデータサイエンス」の授業アンケートの平均値は3.35(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.19(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績との相関を通して、学生の理解度を定量的に分析できており、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 令和6年度は、教育開発センターの学生代表意見交換会(学部3年生を中心として10名)にて教育プログラムに関する意見聴取を行った。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室会議が開かれ点検ならびに、カリキュラムの見直しについて協議が行われた。履修率向上のために履修登録に当たってのガイダンス等を通じて学生に告知した。学生ポータルサイトで教育プログラムの履修状況を学生自身が確認できるようになっている。学生のスマートフォンにデジタル修了証が発行できる仕組みとなっている。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 教育プログラム修了者の一部がDX事業者を含む企業へ就職した。修了者の活躍は、今後、総合企画部広報課による卒業生インタビュー等を通じて評価していく。社会からのニーズは、就職キャリアセンターと企業との面談を通した意見聴取をもとに把握した。また、科目「学外研修」において、IT企業から全学部に対して受け入れ希望があった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の進路状況、企業との面談による意見聴取、学外研修、インターンシップの実績から、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	B
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 教育プログラムの実績の一部をもとに申請した「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」による産業界からの視点を含めた教育プログラム"DX実践ラボ"を継続した。DX実践ラボは外部者による実践的教育とその評価によって、教育プログラムを検証することができる。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証の実施が試みられているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 総合企画部広報課とyoutube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8slY）。また、令和4年度に設置した教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	B
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和6年度は、令和5年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。